

協働によるまちづくりとSDGs開催結果（概要）

日 時	令和4年7月31日（日）13：30～16：00
場 所	苫小牧市民活動センター（ふれあい3・3）講習室A
参 加 者	16人
概 要	<p>1 講義・講演要旨</p> <p>講義① 苫小牧市自治基本条例のご紹介</p> <p>【自治基本条例とは】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まちづくりを進める上での基本的ルール」を定めた条例 ・苫小牧市では「市民であることが誇りに思えるまちを築くことをまちづくりの理念として定める。私たちはこの理念にのっとり、市民自治によるまちづくりを推進する。」と規定 ・市民自治とは、「市民が主役のまちづくり」を行うこと <p>【条例が制定された時代背景について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成12年に地方分権一括法の施行 ・機関委任事務が廃止となり、自治事務と法定受託事務に再編 ・地方分権が進み、国と自治体は「対等・協力」の関係と位置付け ・まちづくりは、自治体の責任で、自ら考え、決める必要 ・平成18年にまちづくりの基本的ルール「苫小牧市自治基本条例」制定 <p>【条例の規定について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苫小牧市自治基本条例の全体の構成は、前文に始まり、第1章から第8章まで、全30条の条文で構成 <p>第1章（総則）</p> <p>第2章（まちづくりの基本原則）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「情報共有の原則」：市民と行政がまちづくりに関する情報の共有 「市民参加の原則」：まちづくりの主役である市民が市政運営に参加 「協働の原則」：各主体が強みを活かして課題解決に向けて協力 <p>第3章（市民）市民の権利、責務について記載</p> <p>第4章（議会）議会の役割、運営、責務について規定</p> <p>第5章（市長等）市役所側の責務について規定</p> <p>第6章（市政運営の原則）市がまちづくりを進める上での個別制度等</p> <p>第7章（条例の位置付け）本条例の趣旨を最大限に尊重することの義務付け、自治基本条例の見直しについて規定</p> <p>第8章（苫小牧市民自治推進会議）市民自治のまちづくりに関する基本的事項について調査審議等の実施</p>

講義② 協働によるまちづくりとSDGs

SDGsとは持続可能な開発目標という意味で、2015年9月の国連サミットで加盟国193か国が全会一致で採択。2016年から2030年の間で達成を目指す国際的な目標であり、17個のゴールと、その下に169のターゲット、より具体的な目標、さらにその目標をはかるための232の指標で構成されている。

持続可能な開発目標の定義は、将来の世代の欲求を満たしつつ、現在の世代の欲求も満足させるような開発ということである。有限な資源を考えた時に、現世代の消費が未来の世代の我慢を強いることにならないように循環型の社会を作っていくことである。

併せて、同じ時代でも生まれた場所によってもたらされる不公平さがない社会を作っていくことが、誰一人取り残されない公平で平和な世界にしていくことを目指す持続可能な社会づくりとなる。

17の目標は、5つの大切な要素が概念としてある。People（社会）、Prosperity（経済）、Planet（環境）、Partnership、Peace（平和）。これらが17個のゴールに対応しており、まず環境と社会と経済を繋げていき持続可能な社会をつくっていく中でもう少し細かく見ていくと、それぞれのゴールがある。

私たちの生活の基盤には、環境、自然環境など一次産業に関わるものがあり、その上に社会が成り立ち、さらにその上に経済が成り立っているという考え方（ウェディングケーキモデル）がある。環境は直接利益をもたらしにくい一方で、経済は短期的に投資すると結果が見えやすく、経済が短期的に大きくなっていくと環境のところが徐々に搾取されてしぼんでいき、いずれ社会もしぼんでいくという構造になる。この環境と社会と経済をつなぐことそのものがパートナーシップにあたるので、SDGsの考え方としては環境、社会、経済をどのように回していくか。その時に協働をどのように活用していくかが重要になる。

SDGsの進捗状況について、2022年6月時点で日本の進捗状況は教育、技術革新、平和に関しては達成済みとされており、ジェンダー、つくる責任つかう責任、気候変動、海、陸の豊かさ、パートナーシップが深刻な課題と評価された。

SDGsは、2018年時点で達成する軌道には乗っていないと言われている。新型コロナウイルスの影響で貧困削減に向けた4年分以上の前進が帳消しになっていること、教育分野でこの20年間の前進も帳消しになってしまったことが報告されている。

気候に関しても、気候変動による惨禍の瀬戸際の状況で、2021年のエネルギー関連のCO₂排出量は6%増加し、気候行動に対する各国のコミット

メントでは、今後 10 年間で 14%近く増加すると言われている。かつ、ウクライナの戦争で物価高から貧困につながっていき、食糧安全保障と援助の流れが脅かされている。

このようにSDGsは2030年に達成できる状況ではないが、SDGsの考え方そのものは2030年以降も続いて行くので、その考え方をを用いて苦小牧（地域）の持続可能性を考えていくことができるのではないかと。

次にSDGsに関する誤解について、1つはSDGsとはエコのことという認識が多いが、環境だけでなく環境、社会、経済を統合的に高めていく変革を目指すものである。

もう1つは、SDGsが壮大な世界の目標かというところである。世界の目標ではあるが、環境、社会及び経済の統合的向上ということは、同様に地域でも必要不可欠である。このように地域へ当てはめて考えていく必要がある。

まちづくりにSDGsをどのように活用するかツールとして伝える時、1つは眼鏡であり物差しである。眼鏡というのは、SDGsのレンズを用いて地域の課題を見た時にどんなことが見えるのか。つまり地域課題を俯瞰して環境、社会及び経済の統合的向上から再発見、再整理するということである。物差しというのは、ターゲットを具体的な定量化にして物差しとして測っていくことができるやり方もある。地域の中でSDGsを考えた時に、どういう数値を読み取り、どの様に進めていけば良いのかを考えるためのツールとすることができる。

もう1つは接着剤として使う。企業と行政、市民団体などの立場と、環境、社会、経済の多様な分野を超えたコミュニケーション、協働の基盤をつくるものとしてSDGsの下に集まることができるので、こうした集まる、つながるためのツールとして活用できる。

協働は、様々な立場や分野の人たちが対等な立場で、お互いの強みを活かし、弱みを補い合い、共通の目的の達成に向けて、新しい価値等を生み出すということ。生み出すことが重要なので、変革に向けてどういう取り組みを生み出していけば良いのかを考える。それで持続可能な地域を考えていくのが協働の深いところの意味になる。

最後に、ウェディングケーキモデルがSDGsの考え方の根幹になる部分なので、この環境と社会と経済の多様な立場、分野、世代をも超えた仲間が集って、地域の人たちとの話し合いの中で地域のありたい姿や、それに向けてどういうギャップがあり、そこをどう取り組んでいかなければならないのかという対話の場がとても重要になる。そのときにSDGsをうまく活用することや、世代を超えた方たちと集まる場を作っていくことが重要である。こうしたSDGsの考え方を取り入れて、地域と世界の持続可能性を考え、協働による長続きする街に苦小牧がなっていくよう取り組んでいくと良い。

グループ討議概要

1 グループ討議のテーマ

各グループで 1 つ自分たちで解決していきたい地域の課題や、取り組んでいきたいプロジェクトを決め、その時に、どのようにすれば解決、実現できるのかを話し合う。

2 グループ討議の内容・発表等

【A グループ】

家庭ゴミ問題について

どのようにすれば家庭ゴミ問題を解決できるかについて話し合った。選んだ理由は一番身近な問題と感じたため。買わない、減らす、再利用（リユース）に分けて考え、最終的に「ゴミ処理のストーリーを知る」という意見を選び、知識を付けてゴミに対する意識を変えようという話でまとまった。実現するための策として、動画を配信することにより、多くの人に知れ渡るのではないかという結論に至った。

【B グループ】

駅前再開発について

苫小牧市の発展を考えた時に、複合ビル、いわゆる学校やマンション、病院が全部一緒になったようなビルを造る意見が出た。また、苫小牧は東西に長いため、循環型バスターミナルや全天候型バスターミナルを設置するという案が出た。札幌への往来も 1 時間ほどで通勤圏内に入るの、こういったものが出来上がると、経済が活性化して人口も増えていくのではないか。あとは JR と空港の直結をしてもらおうと、より苫小牧が活性化するのではないかと感じた。

【C グループ】

健康について

どのようにしたら、みんなが健康でいられるかについて話し合った。個々の取り組みとしては、自分たちでできる健康チェックなどをしていく。団体としては、健康を目的としたスポーツ教室やサークルなどを開き、そういった交流を通すことで健康であり続けられるのではないか。発信の工夫として、広報とまこまいや SNS を利用して発信することにより、若者とお年寄りという世代が異なる人たちの交流ができるのではないかと考えた。

概 要

3 講師等からの講評等

A と C はライフスタイルに関するもので、B は町の施策に関わるまちづくり等の話だった。

話を聞いて感じたことは、1つはやってほしい側のスタンスで考えた時、こうしてほしいと思った時に、なかなか協働って思い浮かばないものだと感じた。また、人にこうしてほしい、ライフスタイルをこういう風に変えてほしいとなると、どうしても発信が中心になるのだなと思った。

協働というものを考える時に、「自分を含めたコミュニティの中で困っていること」というふうに考えると、当事者として困っていることを解決していくために、他の人とどういうふうに繋がっていくかということを考えやすいのだなと思ったので、もしかすると、B グループの駅前の再開発の話の時に、今困っていることは何ですかって、治安のことや、買物弱者がこの地域で生まれそうになっている、車で行かないといけないという状況など、幾つかそういう課題が見えてきたものがあるので、課題を持っている方ベースで考えていくと、どういうふうに協働で解決を考えていくかが一つはしやすくなるのではと感じた。

今日やったことが、一つまたそのためのステップになるのかなと思う。課題というところと当事者というところから一つ考えていくと、協働のまちづくりにつながっていくのではないかな。



この事業はサマージャンボ宝くじの
収益金を活用して実施しています。

2022.7.31
苫小牧市市民自治セミナー

協働によるまちづくりと SDGs (持続可能な開発目標)

GOOD? WORKSHOP 溝淵 清彦
NPOファンリテーションきたのわ 宮本 奏

1

きょうの内容

- SDGsと私たちのまち (講演)
- 地域での取り組みを考える (意見交換)



講演と意見交換により
進めます。質問や疑問
があれば、いつでも
お知らせを!

© 2021 GOOD?WORKSHOP

2

SDGs (持続可能な開発目標)

● Sustainable Development Goals

- ・2015年9月の国連サミットで、加盟国193か国が全会一致で採択
- ・2016年から2030年の15年間で達成を目指す
- ・17のゴールと169のターゲット、232の指標で構成

持続可能な
開発とは?

将来の世代の欲求を満たしつつ、
現在の世代の欲求も満足させるような開発

※国連環境と開発に関する世界委員会の報告書
『Our Common Future』(1987年)

© 2021 GOOD?WORKSHOP

3

「持続可能性」とは?

資源は有限。
現世代の消費が
未来世代に我慢を
強いることに

生まれた「時代」が
もたらす不公平さ

同じ時代でも
紛争等で生きる
ことが困難な
地域もある

生まれた「場所」が
もたらす不公平さ

将来の世代の欲求を満たしつつ、
現在の世代の欲求も満足させる

誰一人取り残されない
公平で平和な世界に!

© 2021 GOOD?WORKSHOP

4

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



出典：国際連合広報センター「2030アジェンダ」

https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

1 貧困をなくそう
あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ

2 飢餓をゼロに
飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する

3 すべての人に健康と福祉を
あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する

あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ

飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する

あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する

4 質の高い教育をみんなに
すべての人に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

5 ジェンダー平等を実現しよう
ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る

6 安全な水とトイレを世界中に
すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する

すべての人に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る

すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する

8 働きがいも経済成長も
すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)を推進する

9 産業と技術革新の基盤をつくろう
強靭なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る

すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する

すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)を推進する

強靭なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る

10 人や国の不平等をなくそう
国内および国家間の格差を是正する

11 住み続けられるまちづくりを
都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靭かつ持続可能にする

国内および国家間の格差を是正する

都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靭かつ持続可能にする

12 つくる責任 つかう責任
持続可能な消費と生産のパターンを確保する

13 気候変動に具体的な対策を
気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る

14 海の豊かさを守ろう
海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する

持続可能な消費と生産のパターンを確保する

気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る

海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する

15 陸の豊かさも守ろう
陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る

16 平和と公正をすべての人に
持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する

17 パートナーシップで目標を達成しよう
持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化させる

陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る

持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する

持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化させる

5つの大切な要素

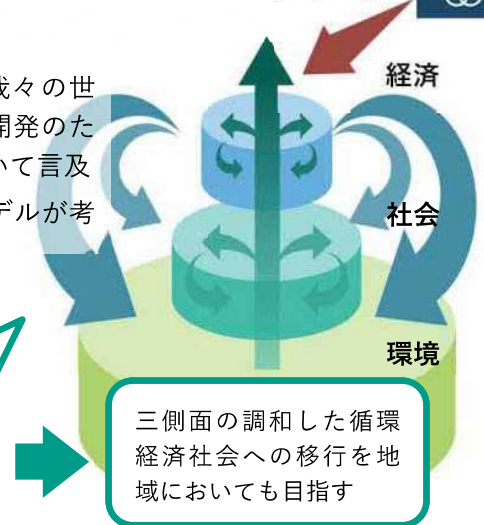


出典：国際連合広報局, SDGsを広めたい・教えたい方のための「虎の巻」に加筆

環境と社会、経済のつながり



- ・SDGsが記載されている「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」において言及
- ・右のウェディングケーキモデルが考え方のもとになっている

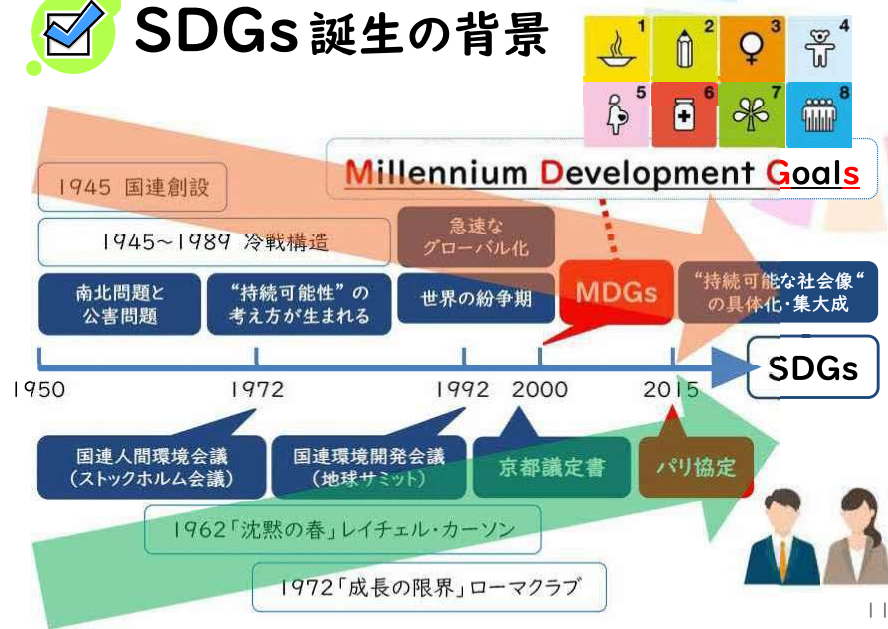


大量生産・大量消費・大量廃棄に象徴される一方通行の経済社会は、「持続可能な開発の三側面」の調和が崩れている

三側面の調和した循環経済社会への移行を地域においても目指す

© 2021 GOOD?WORKSHOP

SDGs 誕生の背景



日本のSDGs進捗状況



出典：Sustainable Development Report 2022

2022年6月2日発表の「Sustainable Development Report 2022」では、日本は昨年より1つランクを落とし、163か国中19位

© 2021 GOOD?WORKSHOP

目標達成は極めて困難(1)

① COVID-19とその影響

- ・ 貧困削減に向けた4年以上の前進が帳消しに
- ・ 教育分野でのこの20年間の前進が帳消しに

② 気候緊急事態

- ・ 世界は気候変動による惨禍の瀬戸際
- ・ 2021年のエネルギー関連のCO2排出量は6%増加
- ・ 気候行動に対する各国の現在の自主的なコミットメントでは、温室効果ガス排出量は今後10年間で14%近く増加

参考・出展：国際連合広報センター
持続可能な開発目標（SDGs）報告2022』発表に関するプレスリリース（2022年7月7日付
日本語訳） プレスリリース 2022年07月15日

13

目標達成は極めて困難(2)

③ ウクライナでの戦争

- ・ 今回の危機により食料、燃料、肥料の価格が高騰し、サプライチェーンと世界貿易がさらに混乱し、金融市場も混乱し、世界の食料安全保障と援助の流れが脅かされている

SDGsを達成することがグローバルな課題への対処に必要な解決策であることを明確に示しています。SDGsを達成するためには、世界規模での緊急の変革的行動とエビデンスに基づいたアプローチが必要です。

参考・出展：国際連合広報センター
持続可能な開発目標（SDGs）報告2022』発表に関するプレスリリース（2022年7月7日付
日本語訳） プレスリリース 2022年07月15日

14

SDGsに関する誤解

● SDGsは“環境”だけの取り組み？

→ SDGsは「環境、社会及び経済」を統合的に高めていく変革を目指す。個別の目標と既存の活動の紐付けに留まるものは「SDGsウォッシュ」とも揶揄（やゆ）される。

● SDGsは壮大な“世界”の目標？

→ SDGsそのものは世界の目標だが、「環境、社会及び経済」の統合的向上は地域でも不可欠。地域へ当てはめて（ローカライズ）考えていく必要がある。

“ Think globally, act locally. ”

© 2021 GOOD?WORKSHOP

15

まちづくりにSDGsを活用する

● SDGsは“眼鏡”であり“ものさし”

- ・ 地域の課題を俯瞰して、「環境、社会及び経済」の統合的向上から再発見、再整理する指針
- ・ 定量化や可視化の観点でも参考にできる

● SDGsは“接着剤”

- ・ SDGsを共通言語として、企業と行政、市民団体などの「立場」や、環境、社会及び経済など多様な「分野」を超えたコミュニケーション、協働の基盤をつくる



© 2021 GOOD?WORKSHOP

16

SDGsにおける「協働」とは

● 先進国と開発途上国をつなぐ グローバル・パートナーシップの活性化



マルチステークホルダー・パートナーシップ

17.16 全ての国々、特に開発途上国での持続可能な開発目標の達成を支援すべく、知識、専門的知見、技術及び資金源を動員、共有するマルチステークホルダー・パートナーシップによって補完しつつ、持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップを強化する。

「協働」の意味

coproduction

一緒に、創り出すこと

協働

いろいろな立場や分野の人たちが対等な立場で、
お互いの強みを生かし、弱みを補い合い、
共通の目的の達成に向けて、新しい価値等を生み出すこと

環境、社会及び経済
各分野や立場の
人たちとも！

地域にSDGsの発想を

「環境、社会及び経済」の多様な立場、
分野の関係者が集い、
地域のありたい姿や、
現在とのギャップを埋
める解決策について
対話、議論を！



SDGsの考え方を取り入れ、
地域と世界の持続可能性を考え、
協働により、長続きするまちに！

溝淵 清彦

GOOD?WORKSHOP

E-mail kmizob@gmail.com